

イチジクのカルテック栽培

(10アール当り)

時期	目的	資材と施用法						
9月～11月 (落葉迄) 養分蓄積期 【収穫後半】	9～10月の秋根の動きを強化して、疲労を回復し、上位節果実の肥大・枝の充実・養分蓄積(翌春の生長)を促します	葉と樹勢の維持に 濃縮酵素液 500倍 葉面散布、収穫中半月ごと ※状態を見ながら カルテックCa液状 500倍を 交互散布します 10月上旬(秋肥) { 硫安 10kg (N:2kg) …養分貯蔵の促進 畑のカルシウム 10kg …充実・耐寒性向上						
12～1月 元肥 (冬肥) (落葉後、休眠期)	地力作り 右記4種の資材を散布して中耕。なるべく深耕を、樹列方向に沿って行います。ただし水田に囲まれて水位の高い田の場合は、畦間の耕起・盛土部への培土にとどめます。(園全体に施用)	ラクトバチルス 600グラム (排水・通気よく、安定した土に) 堆厩肥 (牛糞など) 1トン (なるべく多く、または 米ヌカ 150kg ～) 肥料 (N&Ca) 柘井ドーフィン 蓬萊柿 <table border="1"> <tr> <td>硫安</td> <td>40kg (N:8kg)</td> <td>60kg (N:12kg)</td> </tr> <tr> <td>畑のカルシウム</td> <td>40kg (~60kg)</td> <td>60kg (~80kg)</td> </tr> </table> (状況によって量を加減します) ※もし複合肥料を使う場合、それぞれチッソ成分を計算して施肥。 ※堆厩肥・有機物が不十分な場合は 硫酸カリ 20kg を追加します。 ※イチジクには 栄養素としてのカルシウムがチッソの1.5倍も必要なので、必ず硫安(チッソ)と同量以上のカルシウムを施します。 ※好適土壌pHが 6.5～7.0 と高く、酸性に弱い作物です。7.0以上(~7.8)の弱アルカリ性でも生育しますが、根が衰えがちになります。深耕せずに不溶性の石灰を多用すると、表層土は過度の高pHに、下層土は低pHになりやすいので、溶解性の 畑のカルシウム を施し、深耕する事が重要です。もし高pHになった場合 カルテックCa粒状 で有効なカルシウムを補給します。 (なお、pHの調節は他の時期の追肥時にも留意して下さい。)	硫安	40kg (N:8kg)	60kg (N:12kg)	畑のカルシウム	40kg (~60kg)	60kg (~80kg)
硫安	40kg (N:8kg)	60kg (N:12kg)						
畑のカルシウム	40kg (~60kg)	60kg (~80kg)						
3月下旬～6月上旬(着果始め迄) 春の伸長展葉期	秋の貯蔵養分で生長し、下位節果実の素質を決定	N過多・Ca不足、花序分化・枝葉充実が心配なら 畑のカルシウム 20kg チッソ不足で新葉・枝の発育不良の場合は 硫安 20kg [以上、適宜に]						
5～6月 追肥	枝葉を充実・生長させ 、下位果実の細胞分裂(前期肥大)を進めます	柘井ドーフィン 蓬萊柿 <table border="1"> <tr> <td>硫安</td> <td>30kg (N:6kg)</td> <td>40kg (N:8kg)</td> </tr> <tr> <td>畑のカルシウム</td> <td>30kg (~50kg)</td> <td>40kg (~60kg)</td> </tr> </table>	硫安	30kg (N:6kg)	40kg (N:8kg)	畑のカルシウム	30kg (~50kg)	40kg (~60kg)
硫安	30kg (N:6kg)	40kg (N:8kg)						
畑のカルシウム	30kg (~50kg)	40kg (~60kg)						
6月～7月中旬 (枝の伸長停止迄) 枝葉充実期	新葉の同化養分で生長、中上位節果実の素質決定	濃縮酵素液 (葉の生長・6月の根の強化) } 500倍 葉面散布、半月ごと カルテックCa液状 (葉を厚く充実) } または2リットル灌水						
8月中旬 夏肥	枝葉の維持・果実肥大 と成熟を進めます	柘井ドーフィン 蓬萊柿 <table border="1"> <tr> <td>硫安</td> <td>20kg (N:4kg)</td> <td>30kg (N:6kg)</td> </tr> <tr> <td>畑のカルシウム</td> <td>20kg (~30kg)</td> <td>30kg (~40kg)</td> </tr> </table>	硫安	20kg (N:4kg)	30kg (N:6kg)	畑のカルシウム	20kg (~30kg)	30kg (~40kg)
硫安	20kg (N:4kg)	30kg (N:6kg)						
畑のカルシウム	20kg (~30kg)	30kg (~40kg)						
7月中旬～8月下旬 肥大期 【収穫前半】	Caで成熟促進・鮮度保持 ※交互に散布	カルテックCa液状 (成熟促進) } 500倍 葉面散布、半月ごと 濃縮酵素液 (樹勢維持・肥大促進) } または2リットル灌水 ※エセホン(エチレン)処理後3日間は 葉面散布はしないで下さい						

※上表の施肥量は成木(柘井ドーフィン:6年以上、蓬萊柿:10年以上)の基準です。幼木では0～半量とします。

※**土壌病害・木の衰弱への対策**…白紋羽病・株枯病・線虫、または樹勢が悪い場合、ラクトバチルス投入、濃縮酵素液の灌水を励行して下さい。3月下旬以降ないし7～8月に、重症の場合は根を掘り出して濃縮酵素液100倍で洗い(1本200リットル以上)、3日後、ラクトバチルス50グラムを米ヌカ15kgに混ぜて散布し、覆土します。その後、濃縮酵素液300倍を7日間隔2回灌水(灌注)し、あとは上表の基準で根を強化し続けて下さい。